



ORACLE®

ソフトウェア  
購入ガイド

## はじめに

オラクルのライセンス体系ならびに価格体系にご関心をお寄せいただき、ありがとうございます。

今日のビジネス環境において、ソフトウェアの価格体系およびライセンス契約の戦略の重要性がこれまでになく高まっています。現在、市場環境の転換とビジネス・サイクルの短縮はもはや例外ではなく、ごく一般的な現象となりつつあります。

市況がめまぐるしく変化し、新たなテクノロジー製品が次々に発表される中で、最適なソフトウェアを選択するのは頭の痛い作業です。このガイドの目的は、オラクルのライセンス体系および価格体系への理解を促し、最善のソフトウェア選択を支援することです。このガイドを御社のライセンス管理ならびに最適なソフトウェア選択の一助としていただければ幸いです。

このガイドはオラクルのライセンス体系および価格体系をご理解いただくための重要な資料です。ご使用にあたって適用されるより詳細な契約条件は、御社に提供されるオラクルライセンス契約書をご参照ください。またライセンスをご購入いただく場合は、オラクル営業担当者や正規代理店へお問い合わせください。

## 目次

---

ライセンス契約の概要 .....	3
テクノロジー製品 .....	6
アプリケーション製品 .....	19
On Demand .....	26
サービス .....	28
パートナー .....	39

## ライセンス契約の概要

ソフトウェア・ライセンス契約

許諾される権利

永久ライセンスと期限付きライセンス

ライセンス定義

最少ユーザー数

出荷

### ソフトウェア・ライセンス契約

ソフトウェア・ライセンス契約は、ソフトウェア会社と対象ソフトウェアのユーザー間の契約です。ソフトウェア・ライセンスはソフトウェアを特定の目的で使用するための限定される権利であり、開発元・販売元であるオラクルの知的財産権や使用許諾権はユーザーには移転されず、オラクルに引き続き保留されます。

ライセンスはさまざまな方法で供与されます。ソフトウェア業界で最も一般的なライセンス契約方法は、書面による署名入りの契約や、ソフトウェアパッケージの開封によるシュリンクラップ契約、画面上のボタンをクリックすることによるクリックラップ契約などがあり、これらの契約により、ユーザーはソフトウェアの使用権を許諾され、その制限について承諾したことになります。

オラクルの標準的なライセンス契約は、書面による契約を組み合わせで行います。包括的な条件についてはオラクル・ライセンスおよびサービスに関する契約書[Oracle Licenses Service Agreement (OLSA)]に、特定の製品およびサービスに関する条件については **Ordering Document**（注文書）に記載されます。特に **OLSA** は、許諾される標準的な権利、所有権、制限、保証、免責事項、機密保持などを取りまとめる契約書で、すべてのオラクル製品およびサービスが提供されます。**Ordering Document** は、お客様に許諾される製品の特定、ライセンスの種類、ユーザー数、サポート・レベル、割引、および提供金額など、取引の詳細を規定します。

### 許諾される権限

**OLSA** および **Ordering Document** は、オラクル・ソフトウェアを使用し、注文したサービスを受ける権利のみをお客様に許諾し、お客様の権利は明示的に規定された権利のみに制限されます。オラクル・ソフトウェアに関わるその他のすべての権利はオラクルが保有します。

### 永久ライセンスと期限付きライセンス

オラクルはすべての製品について期限付きライセンスと永久ライセンスを用意しています。永久ライセンスは1度のライセンス料金の支払いにより、お客様がライセンス契約の全条項を遵守しているかぎり、許諾されているオラクル・ソフトウェアを無期限に使用できます。

期限付きライセンスでは、お客様によるオラクル・ソフトウェアの使用が特定の期間内に制限されます。期間終了時には、お客様はソフトウェアの使用を停止するか、契約を延長するか、オラクルまたは正規代理店との契約によって新規ライセンスを購入する必要があります。期限付きライセンスには1年、2年、3年、4年または5年の期間設定が用意されています。期限付きライセンスの料金は、お客様が選択する契約期間（1～5年）によって変動します。

### ライセンス定義

お客様はオラクル製品が提供する機能とかかる機能によって得られる価値を反映するため、ライセンス定義を慎重に選択しなければなりません。ライセンス契約期間はオラクル・ソフトウェアの使用状況をライセンス定義を基準にして測定することになります。

最も一般的なライセンス定義の一例としては、オラクルのアプリケーション製品に使用される「Application User」があります。Application Userは「1台または複数のコンピュータ上に導入されたプログラムを、任意の一時点において実際にプログラムを使用しているか否かに関わらず、製品に対して使用する権利を与えられている特定の個人」と定義されています。アプリケーション・ユーザーごとに使用権が許諾されるソフトウェアを購入する場合は、対象アプリケーションへのアクセスを必要とする全人員に対してライセンスを購入する必要があります。

ユーザーの要求が発展し、ソフトウェア機能も進化するに従って、オラクルは随時、新たなライセンス定義を作成します。この変化に伴い、以前からの定義は廃止される場合があります。お客様に許諾されるソフトウェアに適用されるライセンス定義はそれぞれの **Ordering Document** に記載され、定義され、原則として当該ライセンスの使用期間を通じて有効になります。

### 最少ユーザー数

最少ユーザー数はライセンス定義と関連して使用され、オラクル製品のライセンス契約時に購入が求められるライセンスの最少数を示します。オラクルは製品の基準価格の確保のためにライセンスの最少数をしばしば使用することから、最少ユーザー数は製品やライセンス定義によって異なります。たとえば、Oracle Database Enterprise Edition のライセンス契約に必要な「Processor」ライセンスの最少ユーザー数は1ですが、Oracle Human Resources のライセンス契約に必要な「Employee」ライセンスの最少ユーザー数は100です。最少ユーザー数が設定されている製品の場合は、実際の使用環境におけるユーザー数と最少ユーザー数のいずれか大きい方が購入する必要なユーザー数になります。

### 出荷

出荷プロセスを効率化し、お客様が追跡管理する CD の数を最小限に抑えるため、オラクルは多種多様なソフトウェア製品を1つの CD パック上におさめています。お客様は、ライセンス契約を結んだ対象のプログラムのみをフルに使用できます。この CD の受領によって、ライセンス契

約を結んでいない製品の使用が認められるわけではありません。ただし、OLSA には、30 日間限定の試用ベースで、お客様がライセンスを購入していないプログラムを使用することを認める規定が記載されています。

## テクノロジー製品

### 概要

ライセンス定義

ライセンス契約方針

### 概要

オラクルは、製品ラインナップをテクノロジー製品とアプリケーション製品という 2 つのカテゴリで区別しています。このセクションでは、オラクルのテクノロジー製品について説明します。テクノロジー製品のカテゴリは、データベース、エンタープライズマネージャ、アプリケーション管理およびシステム管理、インターネット・アプリケーション・サーバー、ビジネス・インテリジェンス、ID 管理、ツール、コラボレーション、データウェアハウス製品およびインテグレーション製品などです。

カテゴリ	説明
データベース	<p>オラクルのデータベースは、開発や運用のさまざまなケースに応じて、<b>Enterprise Edition</b>、<b>Standard Edition 2</b>、<b>Personal Edition</b>の各エディションで構成されています。また、<b>Oracle Database Enterprise Edition</b>には特定のアプリケーション環境における<b>Oracle Database</b>の機能を強化するデータベース・オプションも提供されています。</p> <p><b>Enterprise Edition (EE)</b>  <b>Oracle Database Enterprise Edition</b>は、シングルサーバーおよびクラスタシステムの双方の環境で業界トップの拡張性と信頼性を提供します。</p> <p><b>Standard Edition 2</b>  <b>Oracle Database Standard Edition 2</b>は、最大搭載可能プロセッサ数が2ソケットのサーバーに対してのみ、使用権許諾されます。<b>Oracle Real Application Clusters</b>と共に使用する場合、<b>Oracle Database Standard Edition 2</b>は、最大で2台の1ソケットサーバーに対してのみ、使用権許諾されます。さらに、お客様の<b>Oracle</b>ライセンス契約のいかなる条項にも関わらず、各<b>Oracle Database Standard Edition 2</b>データベースは、常時最大<b>16CPU</b>スレッドを使用することができます。<b>Oracle Real Application Clusters</b>と共に使用する場合、各<b>Oracle Database Standard Edition 2</b>データベースは、常時<b>1</b>インスタンスあたり最大<b>8CPU</b>スレッドを使用することができます。</p>
エンタープライズマネージャ	<p><b>Oracle Enterprise Manager</b>は、多数の異種環境をサポートする目的で開発された総合的な管理フレームワークです。</p>
アプリケーション・サーバー	<p><b>Application Server</b>は、<b>iAS TopLink and Application Development Framework</b>、<b>iAS Enterprise Edition</b>、<b>WebLogic Server Standard Edition</b>、<b>WebLogic Server Enterprise Edition</b>、<b>WebLogic Suite</b>の5種類のエディションがあります。</p>
ビジネス・インテリジェンス	<p><b>BI</b>アプリケーション、<b>BI</b>プラットフォーム・テクノロジー、データウェアハウジング製品などで構成される<b>Oracle Business Intelligence (BI)</b>は、インサイト志向の組織のための、テクノロジー製品およびアプリケーション製品で構成される包括的な企業情報分析ツールのポートフォリオです。</p>

Oracle Corporation 発行「SOFTWARE INVESTMENT GUIDE」の翻訳版です。

アイデンティティ・マネジメント	ID管理ソリューションの最高峰スイートであるOracle Identity Managementは、業界唯一のホットプラグ可能なミドルウェアであり、ファイアウォールの内外を問わず、企業リソースに関するユーザー認証のすべてのライフサイクルを管理する機能を提供します。
開発ツール	オラクルが提供するアプリケーション開発ツールは、最新のインターネット技術を使用したあらゆる種類のEビジネス・アプリケーションの構築を可能にします。
コラボレーション	Eメール、ボイスメール、カレンダー、ファイルサービスおよび統合されたサーチ機能から構成されるOracle Beehiveは、標準的なデスクトップ・クライアントからファイル・プロトコル、ウェブ、ワイヤレス、電話など、あらゆるタイプのインタフェースによってアクセスすることが可能です。
データウェアハウス製品	Oracleデータウェアハウス製品は、インテリジェントWebハウスの設計、構築、運用および管理を行うための総合的かつ一体的なオープンソリューションです。Oracleデータウェアハウス製品は、オラクルデータベースの性能を最大限に引き出します。
インテグレーション製品	オラクルのインテグレーション製品は、既存アプリケーションや既存データをオラクルのシステム環境に統合するための製品です。

### ライセンス定義について

オラクルのテクノロジー製品には、主に **Named User Plus/Processor** のライセンス定義があります。**Named User Plus** ライセンスは、ユーザーまたは人が操作しない装置(以降、デバイスと呼ぶ)、あるいはその両方を特定してカウントするライセンスです。**Processor** ライセンスはユーザーを特定せず、**Processor** の数をカウントするライセンスです。

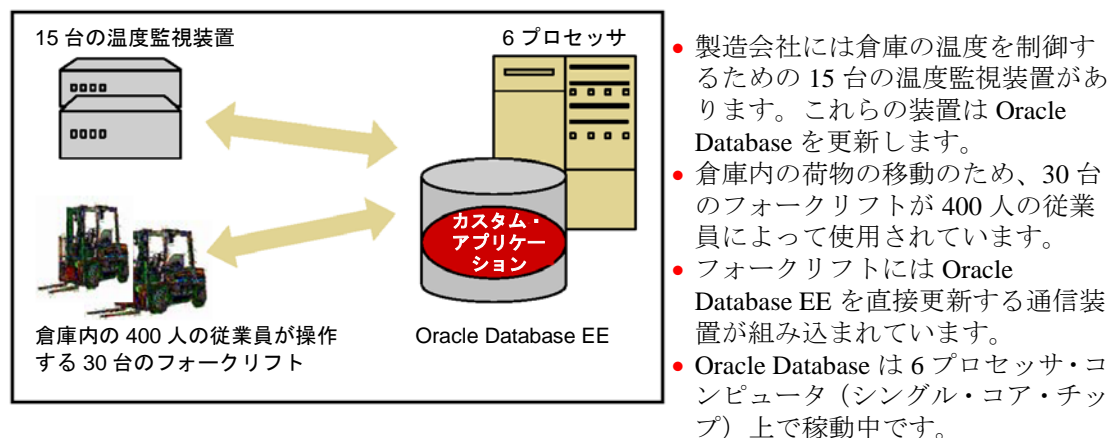
### Named User Plus ライセンスの考え方

**Named User Plus** には人的ユーザーと人的操作のない装置（以下、自動デバイス）の両方が含まれます。プログラムにアクセスするすべての人的ユーザーと自動デバイスにライセンスが必要です。自動デバイスには温度監視装置などのさまざまな機器が該当します。またこれらの機器が特定の個人ユーザーによって操作されている場合は、そのユーザーにライセンスが必要になります。例えば図 1 に示されているように、フォークリフトは自動デバイスではないため、30 台のフォークリフトを操作する 400 人の従業員にライセンスが必要になります。

各ライセンスにおいては、最少ユーザー数が満たされている必要があります。



図 1: テクノロジー製品のライセンス



ライセンス対象の製品	必要なライセンス数
Oracle Database EE	<p>この製品は Processor ライセンスまたは Named User Plus ライセンスを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Processor ライセンスの場合: データベースがインストールされているコンピュータのプロセッサ数分のライセンスが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な Processor ライセンス数: <b>6</b></li> </ul> </li> <li>• Named User Plus ライセンスの場合: 必要なライセンス数は、1) EE の Named User Plus の EE の最少ユーザー数 (25 Named Users Plus/Processor)、または 2) データベースに実際にアクセスするユーザーの総数 (= 温度監視装置 + 倉庫の従業員の数) の、どちらか数値の高い方になります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <math>25 \times 6\text{Processor} = 150 \text{ Named Users Plus}</math></li> <li>2) <math>15 \text{ 台の温度監視装置} + 400 \text{ 人の倉庫従業員} = 415 \text{ Named Users Plus}</math></li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な Named User Plus ライセンス数: <b>415</b></li> </ul> </li> </ul>

多重化機能を持つハードウェア/ソフトウェア (TP モニターや Web サーバー製品等) が使用されている場合、Named User Plus ライセンスの数は多重化フロントエンドを基にカウントします。多重化についてはこのセクションの後半で説明します。

この定義の最少ユーザー数は、分散した数値になる場合があります。もしくは、ソフトウェアがインストールされた、あるいはインストール又は/かつ稼動しているマシンのプロセッサ数に基づく場合があります。例えば、Oracle Database Enterprise Edition、および iAS Enterprise Edition のプロセッサごとの最少ユーザー数はそれぞれ 25、10 Named Users Plus です。Oracle Database Standard Edition 2 の最少ユーザー数は、サーバーごとに 10 Named Users Plus になります。iAS EE では、搭載可能なプロセッサが 1 プロセッサのハードウェアでかつ 1 名で利用する場合、Named User Plus の最少ユーザー数は適用されません。

**メモ:** Oracle Database Standard Edition 2 は、最大搭載可能プロセッサ数が 2 ソケットのサーバーに対してのみ、使用権許諾されます。Oracle Real Application Clusters と共に使用する場合、Oracle Database Standard Edition 2 は、最大で 2 台の 1 ソケットサーバーに対してのみ、使用権許諾されます。さらに、お客様の Oracle ライセンス契約のいかなる条項にも関わらず、各 Oracle Database Standard Edition 2 データベースは、常時最大 16CPU スレッドを使用することができます。Oracle Real Application Clusters と共に使用する場合、各 Oracle Database Standard Edition 2 データベースは、常時 1 インスタンスあたり最大 8CPU スレッドを使用することができます。

### Processor ライセンスの考え方

この定義はインターネットベースのアプリケーションなど、ソフトウェア・ユーザーを簡単に特定またはカウントできない場合使用されます。また Processor ライセンスは、Named User Plus ライセンスより費用対効果が高い場合にも使用されます。対象プログラムが導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ (CPU) の総数にライセンスが必要です。

4、6 または 8 コア (1.0GHz) あるいは 8 コア (1.2GHz) の Sun UltraSPARC T1 プロセッサに対してライセンスが必要なプロセッサ数を求める場合、"n"コアは総コア数にコア・プロセッサ・ライセンス係数 0.25 を乗じることができます。これは [http://www.oracle.com/corporate/contracts/library/sun\\_server\\_table.pdf](http://www.oracle.com/corporate/contracts/library/sun_server_table.pdf) からアクセス可能な Sun Server Table に掲載されたコンピュータにのみ適用されます。

AMD および Intel のマルチコア・チップに対してライセンスが必要なプロセッサ数を求める場合、"n"コアは総コア数にコア・プロセッサ・ライセンス係数 0.5 を乗じることで決まります。

このセクションで指定されたもの以外のあらゆるハードウェア・プラットフォームに対してライセンスが必要なプロセッサ数を求める場合、マルチコア・チップの "n" コアにコア・プロセッサ・ライセンス係数 0.75 を乗じることで決まります。前述した各コア・プロセッサ・ライセンス係数に対する各ライセンス・プログラムのすべてのマルチコア・チップ上の全コアに、適切なコア・プロセッサ・ライセンス係数で乗算され、端数はすべて整数に切り上げてプロセッサ数を算出します。Standard Edition 2 プログラムのライセンス契約時には、ソケット数がカウント対象になります。

プログラムがインストールされているコンピュータでハードウェア・パーティショニングが可能な場合、コンピュータの一部でしかオラクル・プログラムを使用していないことを示す十分な情報がオラクルに提供されれば、使用中の部分に対するライセンスだけが必要になります。後述するパーティション化のセクションを参照してください。

## テクノロジー製品のライセンス・ポリシー

### 前提製品ルール

ライセンス対象の環境

データ・リカバリ・ポリシー

コンピュータのパーティショニング

バッチ処理、フラット・ファイルのインポート／エクスポート、多重化

### 前提製品ルール

多くのソフトウェア製品には他のソフトウェア製品との機能的な相互依存性があります。前提製品は、プライマリ製品の発売元の会社が提供する場合もあれば、他のベンダー企業が提供する場合もあります。このタイプの機能的な相互依存性の単純な比喩的例として、ワープロ・ソフトウェア・プログラムとオペレーティング・システムの関係があります。ワープロ・ソフトウェアを使用する前に、オペレーティング・システムが同じハードウェアにインストールされている必要があります。前提製品は多くの場合、別個に販売されます。

これと同じように、多くのオラクル製品には他のオラクル製品との機能的な相互依存性があります。一部のケースでは前提製品は別個に販売されます。機能的な相互依存性がより限られているケースでは、ライセンス対象製品の使用を促進するため、前提製品の使用制限付きの無償ライセンスがお客様に提供される場合があります。

### ライセンス対象の環境

ソフトウェアは常に、何らかのハードウェアおよびオペレーティング・システムと組み合わせて使用します。現代社会でソフトウェアはしばしば、複合ネットワーク内でまとめて接続される、多種多様なハードウェアおよびオペレーティング・システムと組み合わせて使用されます。オラクル・ソフトウェアはオープン標準をベースに開発されているため、さまざまなメーカーのコンピュータ、コンピュータおよびデバイスにインストールして使用することが可能で、多様なオペレーティング・システムに対応しています。

「構成」という用語は、個々のお客様が稼動するハードウェア、ソフトウェアと、ライセンス対象のユーザーおよびデバイスの組合せを示すために使用されます。たとえば、ある（基本的な）構成の例は、Sun Solaris サーバー上で稼動する 160 Named User Plus の Oracle Database Enterprise Edition です。

オラクル・ソフトウェア製品の使用にはオラクル・ライセンスが必要です。オラクル・ソフトウェアによって得られる価値を最大化するには、開発、テスト、本番およびスタンバイ（待機系）などのさまざまな環境で使用できるライセンスを保有するようにします。

**開発:** ソフトウェアのセットアップ、カスタマイズ、変更は開発環境で実施されます。ソフトウェアを使用して開発作業をおこなうユーザーすべてにライセンスが必要です。開発作業（制限付き）が可能なオラクル・ソフトウェアは Oracle Technology Network (OTN) からダウンロードできます。OTN Web サイトからダウンロードされたソフトウェアは、OTN Development License という特別なライセンス契約で管理されています。この契約は開発環境のみでプログラムを使用する権利を個人に供与します。この契約によって取得されたライセンスはテスト、本番、フェイルオーバー、その他すべての環境における使用が許可されていません。また、社内のデータ処理、商用または生産目的のために OTN ライセンスで開発したアプリケーションを使用するお客様は、その目的にアプリケーションを使用する前に、OTN 契約でライセンスを取得した開発ソフトウェアに対して Full Use オラクル・ライセンスを取得する必要があります。

開発作業により制約のないライセンスを必要とするお客様は、標準的なオラクル・ライセンスおよびサービスに関する基本契約書 (OLSA)、または適切なライセンス許諾書における Full Use ライセンスを、弊社営業担当者から入手できます。

**本番:** ビジネスやその他の目的でエンド・ユーザーが使用する環境を本番環境と呼びます。本番環境で使用されるプログラムにはすべて、オラクル・ライセンスおよびサービスに関する契約書 (OLSA)、または適切なライセンス許諾書による、対象のライセンス定義をベースにしたライセンスが必要です。

## データ・リカバリ・ポリシー

バックアップ/フェイルオーバー/スタンバイ/リモートミラーリング：

詳細については、[Licensing Data Recovery Environments document](#)をご参照ください。

<http://www.oracle.com/us/corporate/pricing/data-recovery-licensing-070587.pdf>

## コンピュータのパーティショニング

パーティショニングについての詳細情報は、以下の URL をご参照ください。

<http://www.oracle.com/us/corporate/pricing/specialty-topics/index.html>

## バッチ処理、フラット・ファイルのインポート/エクスポート、多重化

コンピューティング環境の規模と複雑性の拡大に伴って、バッチ処理と多重化の重要性も増します。残念ながら、バッチ処理や多重化の構成要素はベンダー間で常に統一されているわけではないため、混乱が生じやすくなります。この 2 つのプロセスはライセンス面で異なる意味合いを持つため、オラクル製品における各プロセスの定義を十分に理解することが重要です。

**バッチ処理:** バッチ処理は、異なる時間帯に発生するタスク・グループをすべて同時に処理するアクティビティであり、ユーザーの操作はほとんど必要ありません。多くの環境において、バッチ処理はコンピュータのデータをデータベースが稼動中のコンピュータに転送するために実行されます。

データベース内外へのデータのバッチ処理には 2 つの一般的なメソッドがあります。

- 自動バッチ/データ・フィード: データを自動的にアップロードするバッチ処理スクリプトが記述されているため、このメソッドは人的操作を必要としません。図 7 を参照してください。
- 手動バッチ/データ・フィード: バッチ処理スクリプトの実行をユーザーが有効化するため、このメソッドは人的操作を必要とする手動プロセスです。

バッチ処理環境のライセンス契約には **Processor** ライセンスおよび **Named User Plus** ライセンスの両方を使用できます。**Processor** ライセンスでバッチ処理環境のライセンス契約をおこなう場合、**Oracle Database** が導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ (CPU) の総数にライセンスが必要です。**Named User Plus** ライセンスでバッチ処理環境のライセンス契約をおこなう場合、稼動中のデータベースに対してコンピュータとコンピュータ間におけるデータのバッチ処理は自動バッチとして見なされます。手動バッチ処理環境ではバッチ/データ・フィードを実行しているユーザーが実際のユーザーであると想定されるため、これらのユーザーに対するライセンスが必要になります。必要なライセンス数は、ライセンスの最少ユーザー数か、オラク

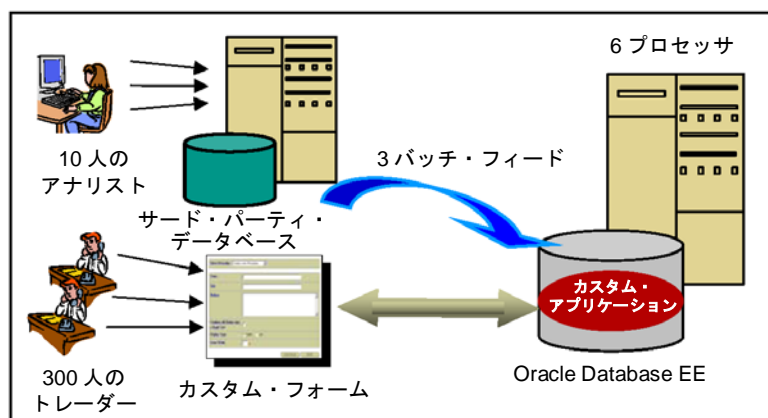
ル・プログラムに実際にアクセスするユーザーの総数の、どちらか数値の高い方になります。自動バッチについては、Named User Plus のカウントの対象外です。

**フラット・ファイルのインポート/エクスポート:** このメソッドには人的操作が必要であり、インポート/エクスポート・ユーティリティを使用してフラット・ファイルのデータ（例: Excel または CSV ファイル）を Oracle Database にインポートまたはエクスポートできます。Processor ライセンスおよび Named User Plus ライセンスの両方を使用できます。Processor ライセンスでライセンス契約をおこなう場合、Oracle Database が導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ（CPU）の総数にライセンスが必要です。Named User Plus ライセンスでライセンス契約をおこなう場合、フラット・ファイルのインポート/エクスポートを実行しているユーザーが実際のユーザーであると想定されるため、ライセンスが必要になります。必要なライセンス数は、ライセンスの最少ユーザー数か、オラクル・プログラムに実際にアクセスするユーザーの総数の、どちらか数値の高い方になります。

**多重化:** 多重化では、多数のエンド・ユーザーおよびデバイスが TP モニターや Web サーバー製品などの 1 つのインタフェースを介してシステムにアクセスするため、表面的なユーザーおよびデバイスの数は、実際にシステムにアクセスしているユーザーおよびデバイスの数よりもかなり少なくなります。オラクル・ソフトウェアが、多重化ハードウェア/ソフトウェアを使用する環境で使用される場合は、多重化ハードウェア/ソフトウェアに接続するユーザーおよびデバイスすべてについてライセンスを取得する必要があります。

多重化環境のライセンス契約には Processor ライセンスおよび Named User Plus ライセンスの両方を使用できます。Processor ライセンスで多重化環境のライセンス契約をおこなう場合、Oracle Database がインストールされた、あるいはインストールされ、かつ稼動しているプロセッサにライセンスが必要です。Named User Plus ライセンスで多重化環境のライセンス契約をおこなう場合、必要なライセンス数は、ライセンスの最少ユーザー数か、オラクル・プログラムにアクセスする多重化ハードウェア/ソフトウェアに接続する実際のユーザーの総数、どちらか数値の高い方になります。

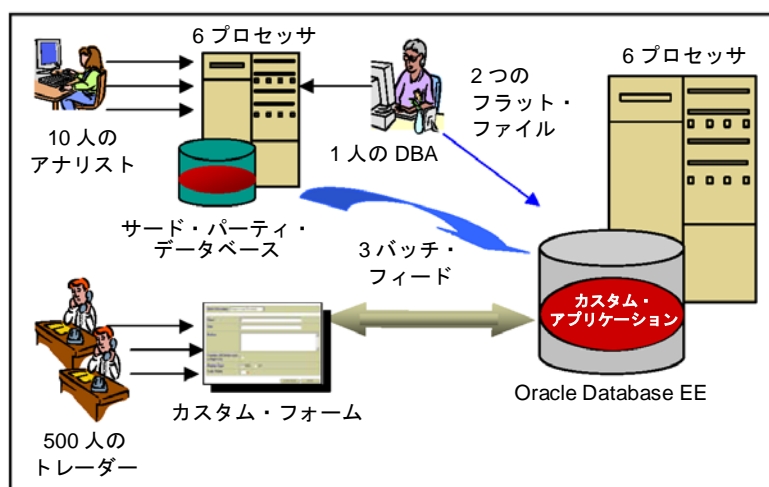
図 2: バッチ処理



- 3つの固有バッチ/データ・フィードが Oracle Database を更新します。
- 300人のトレーダーが Oracle Database EE にアクセスします。
- 10人のアナリストが サード・パーティ・データベースにアクセスします。
- Oracle Database が 6 プロセッサ・サーバーで稼動しています。

ライセンス対象の製品	必要なライセンス数
Oracle Database EE	<p>この製品は Processor ライセンスまたは Named User Plus ライセンスを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Processor ライセンス: データベースが導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ (CPU) の総数にライセンスが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 必要な Processor ライセンス数: <b>6</b></li> </ul> </li> <li>• Named User Plus ライセンス: 必要なライセンス数は、1) Named User Plus の最少ユーザー数 (25 Named Users Plus/プロセッサ)、または 2) データベースに実際にアクセスするユーザーの総数 (= トレーダーの数) の、どちらか数値の高い方になります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 25 × 6 プロセッサ = 150 Named Users Plus</li> <li>2) 300 人のトレーダー = 300 Named Users Plus</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 必要な Named User Plus ライセンス数: <b>300</b></li> </ul> </li> </ul>

図 3: フラット・ファイルのへのインポート/エクスポート

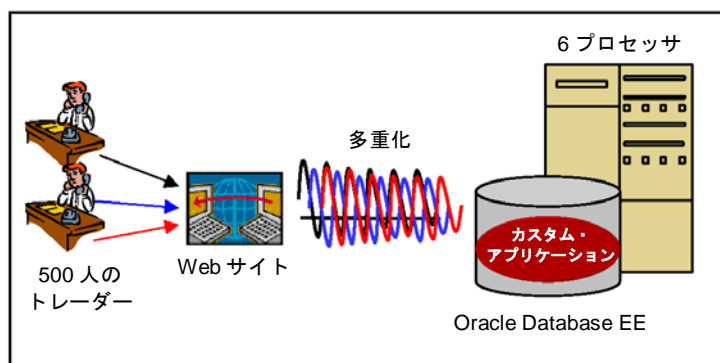


- 3つの自動バッチ・フィードが Oracle Database を更新します。
- 500人のトレーダーが300台のコンピュータで Oracle Database EE にアクセスします。
- 10人のアナリストがサード・パーティ・データベースにアクセスしています。
- 1人のDBAが2つのフラット・ファイルを Oracle Database にインポートしています。
- Oracle Database が6プロセッサ・サーバーで稼動しています。

ライセンス対象の製品	必要なライセンス数
Oracle Database EE	<p>この製品は Processor ライセンスまたは Named User Plus ライセンスを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Processor</b> ライセンス: データベースが導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ (CPU) の総数にライセンスが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 必要な Processor ライセンス数: <b>6</b></li> </ul> </li> <li>• <b>Named User Plus</b> ライセンス: 必要なライセンス数は、1) <b>Named User Plus</b> の最少ユーザー数 (25 Named Users Plus/プロセッサ)、または 2) データベースに実際にアクセスするユーザーの総数 (= トレーダーの数 + 1人のDBA) の、どちらか数値の高い方になります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <math>25 \times 6</math> プロセッサ = 150 Named Users Plus</li> <li>2) 500人のトレーダー + 1人のDBA = 501 Named Users Plus</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 必要な Named User Plus ライセンス数: <b>501</b></li> </ul> </li> </ul>



図 4: 多重化



- ソース・ホスト・システムのデータは、Web サイトが設置されている Web サーバーで多重化されます。
- 500 人のトレーダーが Oracle Database EE にアクセスします。
- Oracle Database が 6 プロセッサ・サーバーで稼動しています。

ライセンス対象の製品	必要なライセンス数
Oracle Database EE	<p>この製品は Processor ライセンスまたは Named User Plus ライセンスを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Processor</b> ライセンス: データベースが導入される特定のコンピュータ上に搭載されているプロセッサ (CPU) の総数にライセンスが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 必要な Processor ライセンス数: <b>6</b></li> </ul> </li> <li>• <b>Named User Plus</b> ライセンス: 必要なライセンス数は、1) <b>Named User Plus</b> の最少ユーザー数 (25 <b>Named Users Plus</b>/プロセッサ)、または 2) データベースに実際にアクセスするユーザーの総数 (= トレーダーの数) の、どちらか数値の高い方になります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <math>25 \times 6 \text{ プロセッサ} = 150 \text{ Named Users Plus}</math></li> <li>2) 500 人のトレーダー = 500 <b>Named Users Plus</b></li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 必要な <b>Named User Plus</b> ライセンス数: <b>500</b></li> </ul> </li> </ul> <p><b>注意:</b> これは多重化環境なので、多重化ハードウェア/ソフトウェアに接続するすべてのユーザーにライセンスが必要です。</p>

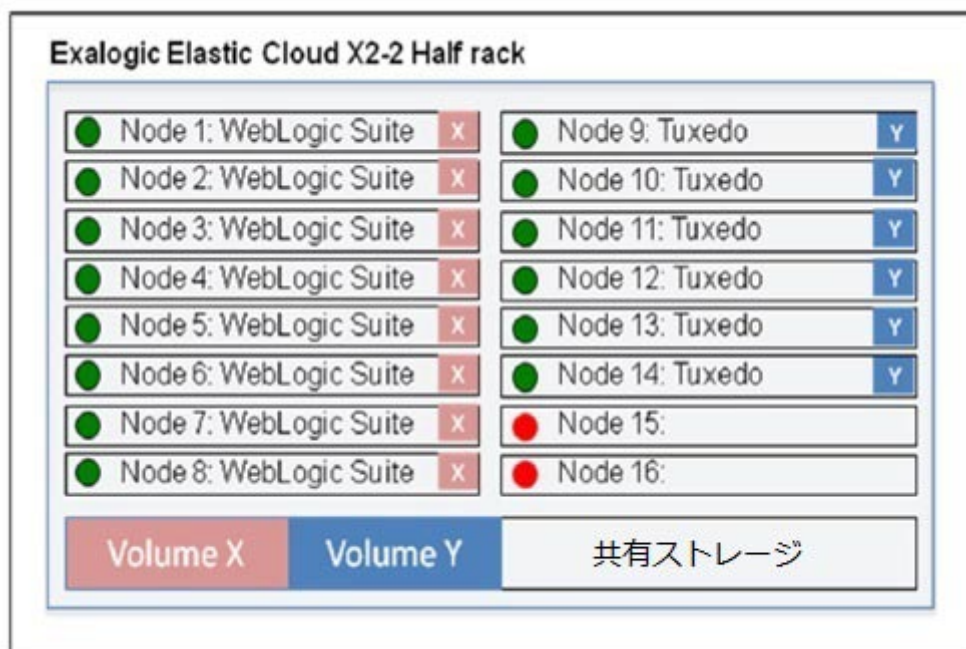
## Exalogic Elastic Cloud上の共有ストレージの例（非仮想化環境）

複数のシステムに接続・使用されているストレージ装置を、「共有ストレージ」と呼びます。「共有ストレージ」装置はストレージ管理の柔軟性とコスト効果に優れ、企業のデータセンターに幅広く採用されています。

共有ストレージ装置を導入する際は、標準的なライセンス定義が適用され、オラクル・プログラムがインストールされ、及び／又は稼働するすべてのプロセッサ数に対しライセンスが必要です※。

※ 対象プログラムが稼働していなくても対象サーバーにインストールされている場合、そのサーバーはライセンスカウント対象となります。また対象プログラムがインストールされてなくても対象サーバーにおいて、プログラムが稼働している場合もそのサーバーはライセンスカウントの対象となります。

図6： Exalogic Elastic Cloud上の共有ストレージ（非仮想化環境）



- Exalogic Elastic Cloud X2-2 Half Rack 16 node（1 ノードあたり 2 つの 6 コア・プロセッサ：1 ノードあたり 12 コア：合計 192 コア）。
- 8ノード（計96コア）でWebLogic Suiteが稼働中。
- 6ノード（計72コア）でOracle Tuxedoが稼働中。
- 2ノードがPowered Offされている。

お客様はProcessorライセンスを許諾すると仮定。

## シナリオ 6a :

すべてのソフトウェアが共有ストレージ上のシングル・ボリュームにインストールされ、そのボリュームがすべての演算ノードにマウントされます。

## シナリオ 6b :

WebLogic Suiteが共有ストレージ上のVolume X にインストールされ、WebLogic Suiteが稼働するノードにマウントされます。同様に、Oracle Tuxedoが共有ストレージ上のVolume Y にインストールされ、Oracle Tuxedoが稼働するノードにマウントされます。Volume X はOracle Tuxedoが稼働するノードからはアクセスできません。

ライセンス対象の製品	必要なライセンス数
Oracle WebLogic Suite	シナリオ 6a : <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 必要なProcessorライセンス数: 168</li> <li>• 14ノード × 12コア/ノード = 168 Processor</li> <li>• 注: コア係数0.5が適用される場合は、84 Processor</li> </ul> シナリオ 6b : <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 必要なProcessorライセンス数: 96</li> <li>• 8ノード × 12コア/ノード = 96 Processor</li> <li>• 注: コア係数0.5が適用される場合は、48 Processor</li> </ul>
Oracle Tuxedo	シナリオ 6a : <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 必要なProcessorライセンス数: 168</li> <li>• 14ノード × 12コア/ノード = 168 Processor</li> <li>• 注: コア係数0.5が適用される場合は、84 Processor</li> </ul> シナリオ 6b : <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 必要なProcessorライセンス数: 72</li> <li>• 6ノード × 12コア/ノード = 72 Processor</li> <li>• 注: コア係数0.5が適用される場合は、36 Processor</li> </ul>
Oracle Exalogic Elastic Cloud Software	必要なProcessorライセンス数: 168 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 14ノード × 12コア/ノード = 168 Processor</li> <li>• 注: コア係数0.5が適用される場合は、84 Processor</li> </ul>
他のライセンス上の留意点	「Powered Off」されているノードには、当該ノードが本番に移行（「Powered On」）されるまでライセンスは必要ありません。

## Exalogic Elastic Cloud上の共有ストレージ（Trusted Partition環境）

仮想化環境の場合は、アプリケーション・バイナリを含む共有ストレージのボリュームは全てのノードから可視であり、Powered Onされている全てのノードについてソフトウェアのライセンスが必要となります。ライセンス・コストを低減するオプションとして、Oracle Trusted Licensingスキームを活用し、特定パーティションに対してのみライセンスを許諾する方法があります。詳細については、パーティショニング・ポリシーに関するドキュメントをご参照ください。

## アプリケーション製品

### 概要

ライセンス・モデル

必須製品ルール

### 概要

オラクルのポートフォリオには、テクノロジー製品の他にアプリケーション・ソフトウェアも含まれます。オラクル・アプリケーション製品ラインには **Oracle E-Business Suite**、**Siebel**、**PeopleSoft** および **JD Edwards** があります。これらのグローバルで幅広い企業活動に適応したアプリケーション製品群以外に、各業界の固有のニーズに対応する業種別アプリケーション製品群も提供しています。オラクル・アプリケーションの主な概要は以下の通りです。

カテゴリ	説明
Oracle Analytic and Business Intelligence (BI) Applications	<p>オラクルは業界トップのビジネス分析ソフトウェア・ベンダーであり、企業のあらゆる業務分野に対応するデータウェアハウス、ETL (抽出、変換、ロード)、ビジネス・インテリジェンスおよび分析などの最も包括的なソリューションを提供します。これらの製品は、正規化された一元的なソースからトランザクション・システムに直接ドリルバックを行います。製品の機能には、業績管理、インタラクティブ・ダッシュボード、企業全体の情報分析を実現する組み込みの分析機能などが含まれます。このオープンで且つ事前定義済の業界固有のビジネス・インテリジェンス・アプリケーションは、個々のビジネス機能およびユーザー・ロールにおける対処しやすいインテリジェンスを提供します。</p> <p>Oracle Analytic and Business Intelligence Applications のソリューション: Marketing &amp; Sales Intelligence, Activity-Based Management, Balanced Scorecard, Financial Analyzer, Analytics for CRM, Workforce, Contact Center, Supply Chain など。これらはオラクルが提供する <b>Analytic and Business Intelligence</b> アプリケーションの利用可能な製品群の一部です。</p>

カテゴリ	説明
Oracle Customer Relationship Management (CRM)	<p>460 万人を超えるユーザーに利用されている Oracle CRM は、最も包括的で多くの導入実績を誇る CRM ソリューションです。Oracle CRM は、マーケティングおよび販売から契約および受注管理、そして顧客サポートおよびサービスにいたるまで、顧客と関連するすべてのビジネス・プロセスと関連システムを含むソリューションを提供します。</p> <p>Oracle Customer Relationship Management のソリューション: Marketing, Email Marketing Server, Telemarketing, Telesales, Field Sales, Territory Management, Strategic Account Planning, Proposals and Presentations, Contracts, Customer Order Management, Partner Relationship Management, Channel Management, Field Service, Contact Center and Support など。これらはオラクルが提供する <b>Customer Relationship Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>
Oracle Financial Management	<p>オラクルは真に統一された財務構造を提供します。可視性、制御性および業務の生産性が向上すると同時に、財務部門はさまざまなビジネスや地域にまたがる業務を一元的に管理できるようになります。この広範な <b>Financial Management</b> アプリケーションによって財務情報が継続的に収集、計算、分析および保存されることから、データの整合性が維持され、コスト削減も実現します。</p> <p>Oracle Financial Management のソリューション: Enterprise Planning and Budgeting, Asset Lifecycle Management, General Ledger, Assets, Cash Management, Accounts Payable, Accounts Receivable, Treasury, Advanced Collections, Lease Management など。これらはオラクルが提供する <b>Financial Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>
Oracle Governance, Risk, and Compliance (GRC) Management	<p>Oracle Governance, Risk, and Compliance Management ソフトウェアは業界のベスト・プラクティスを実現し、単一のプラットフォームで複数のコンプライアンス要件フレームワークを管理します。GRC プラットフォームは全社的なリスクおよびアクセス管理を提供し、監視とレポートを制御すると同時に、コンプライアンス、リスクおよびパフォーマンス管理データへのリアルタイム・アクセスも可能にします。</p> <p>Oracle Governance, Risk, and Compliance Management のソリューション: Financials Intelligence, Financial Consolidation Hub, Enterprise CFO Portal, Internal Controls Manager, Internal Controls Enforcer, Enterprise Investor Portal など。これらはオラクルが提供する <b>Governance, Risk, and Compliance Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>

カテゴリ	説明
Oracle Human Capital Management (HCM)	<p>Oracleはあらゆる規模および業種の企業に適用可能な、世界有数の <b>Human Capital Management</b> ソリューションを提供します。Web ベースのアプリケーション・ファミリーは採用から退職までの人的リソースの全プロセスを自動化し、企業の戦略目標に合わせた従業員の配置およびトレーニングを可能にします。</p> <p>Oracle Human Capital Management のソリューション: eRecruit、Enterprise Learning Management、Self-Service HR、Advanced Benefits、Workforce Scheduling、Time and Labor、Payroll、Expense Management、ePerformance、Absence Management、Stock Administration、Pension Administration など。これらはOracleが提供する <b>Human Capital Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>
Oracle Procurement	<p>Oracleの調達アプリケーション製品群は、購買プロセス全体を合理化することでサプライヤーとの関係を最適化します。4つの統合型製品ラインの利用によって、商品およびサービスの戦略的調達、サプライヤーとのリアルタイムの情報共有、調達プロセス全体の自動化と管理、ベスト・プラクティスの適用、ポリシー・コンプライアンスの徹底が可能になります。</p> <p>Oracle Procurement のソリューション: Sourcing、Purchasing、Catalog Management、Procurement Management、Supplier Contract Management、Inventory Management、iSupplier Portal、Supplier Self-Service など。これらはOracleが提供する <b>Procurement</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>
Oracle Management Project	<p>Oracle Project Management 製品群により、プロジェクト主体の組織および部門は、プロジェクトの管理ライフサイクル全般をサポートする業務プロセスを確立できます。これらのアプリケーションを通じて、組織の規模や業種に関係なく、適切なプロジェクトの選択、適切なリソースの割当て、実施の合理化や、予算設定、予測および請求/入金相殺による利益性の追跡などが実現します。</p> <p>Oracle Project Management のソリューション: Proposal Management、Contracts、Project Resource Management、Project Costing、Time and Labor、Project Billing、Project Portfolio Analysis、Change Management、Grants など。これらはOracleが提供する <b>Project Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>

カテゴリ	説明
Oracle Supply Chain Management (SCM)	<p>Oracleは調達から受注管理、製造、製品ライフサイクル管理、設備管理、物流にいたるサプライ・チェーンの計画と実行要件に対応する 4 つの <b>Supply Chain Management</b> 製品群を提供します。Oracle SCM アプリケーション製品群は製品開発から計画、調達、製造、物流までのあらゆる主要なサプライ・チェーン上の活動を統合し自動化します。</p> <p>Oracle Supply Chain Management のソリューション: Supply Chain Planning、Inventory Optimization、Global Order Promising、Product Configurator、Flow Production、Discrete Manufacturing、Quality Management、Requirements Planning、Warehouse Management、Production Scheduling。これらはOracleが提供する <b>Supply Chain Management</b> アプリケーションの利用可能な製品の一部です。</p>

### ライセンス・モデル

オラクル・アプリケーション製品の価格設定およびライセンス契約戦略の目的は、ソフトウェア投資に関する柔軟性と予測性をお客様にもたらしことです。この目的を達成するため、すべてのアプリケーション製品は、**Component 価格**、**Custom Applications Suite (CAS) 価格**、および **Enterprise 価格** のいずれかのライセンス・モデルを利用できます。お客様はこれらのライセンス・モデルを利用して、1回の注文で、運用環境に最適なライセンスを組み合わせ稼働できます。ただし、一部のアプリケーションの契約条件や機能性によっては、すべての製品に 3 つの価格設定モデルが適用されるわけではありません。3 つのライセンス・モデルの概要を次に示します。

### Component 価格モデル

オラクルの多種多様なアプリケーションを反映するため、複数のライセンス定義が **Component 価格モデル** で提供されます。これは従来から存在するアラカルト式の価格設定であり、少数のオラクル製品を限られた数のエンド・ユーザーで使用するお客様にとって費用対効果の高いライセンス・モデルです。

このモデルは、少数のエンド・ユーザーが使用する少数の製品のためのアラカルト式価格設定と位置付けられますが、一方で、ライセンス・モデルとしてコンポーネント・モデルが最も適している大規模な顧客環境も多数あります。

コンポーネント・ライセンス定義は **User** ベースと従量課金ベースという 2 つの基本区分に分けられます。**User** ベース定義はソフトウェアの使用を許可されている個人をカウントします。共通の **User** ベース・ライセンス定義には **Application User** (アプリケーション・ユーザー)、**Employee** (従業員)、**Customer** (顧客)、**Subscriber** (サブスクライバ) などがあります。

User ベース定義の例:

**Application User:** 1台または複数のコンピュータ上にインストールされた対象プログラムを、任意の一時点において実際に使用しているか否かにかかわらず、製品に対して使用する権利を与えられている特定の個人を指します。

**Employee:** 常勤、非常勤、一時雇用の社員及び代理人、契約社員、コンサルタントを含めた全従業員の総数を指します。(注: 実際に利用するユーザー数ではなく、全従業員数の規模によって価格を設定しています。従って、全従業員数分のライセンスが必要です)。業務の全部または一部を外部に委託している場合は、当該業務を提供する委託業者における常勤、非常勤、一時雇用の社員及び代理人、契約社員、コンサルタントを含めた全従業員の内、当該委託業務の提供に従事する者の人数を加算する必要があります。



**Subscriber:** この定義は以下のいずれかを指します。: (a)固定電話番号(b)携帯電話又はポケベル(c)ケーブル事業者より提供されるレジデンシャル・ドロップ又はノンレジデンシャル・デバイス(d)ライブ・コネクテッド・ユーティリティ・メーター

Subscriber の総数は全 Subscriber 数の合計値となります。前述のタイプに当てはまらない場合は、アニュアルレポート、財務諸表、或いは各種報告書で SEC に提出する、\$1,000 単位での年間売上高(gross annual revenue)とします。

従量課金ベース定義は、アプリケーションがアウトプットとして処理または作成する項目、たとえば Electronic Order Line、Expense Report、Customer Record、\$M Cost of Goods Sold などをカウントします。

従量課金ベース定義の例:

**\$M Cost of Goods Sold (COGS) :** この定義は主に Supply Chain Planning アプリケーションで使用されます。会計年度内の売上原価総計を指し、百万 US ドルで定義されます。売上原価が不明の場合は総売上の 75%を売上原価と見なします。

**Electronic Order Line:** この定義はあらゆるソースから電子的に入力される 12 ヶ月間の受注明細行数を指します。**Expense Report:** 名前の通り、この定義は経費精算書を作成するアプリケーションで使用され、対象製品で処理する 12 ヶ月間の総経費精算書数を指します。

### Custom Applications Suite (CAS) 価格モデル

CAS モデルを利用すると、お客様やパートナーがユーザーのニーズを基にカスタム・バンドルを構成できます。CAS ライセンス・モデルは、オラクル製品で標準化を実施している企業で、バンドル内の全アプリケーションへのアクセスを必要とするユーザーを持つ企業に適しています。お客様は Oracle E-Business Suite(EBS)、Siebel、PeopleSoft および JD Edwards の製品ラインからアプリケーションを選択できます。

CAS 価格設定モデルには 1 つのライセンス定義があります。

**Custom Suite User:** この定義は任意の一時点で当該 Custom Applications Suite に含まれるアプリケーションプログラムを実際に使用しているかどうかにかかわらず、1 台又は複数のコンピュータ上に導入された当該アプリケーションプログラムに対して使用する権利を有する特定の個人を指します。

CAS のライセンス契約には最少ユーザー数と制約が適用されます。このモデルがお客様のニーズに最適かどうかを判断するには、オラクルの営業担当者にお問い合わせください。

**Enterprise Applications 価格モデル**

オラクル製品で標準化を実施しており、かつ社内外に多数のユーザーが見込まれる企業を対象としています。Enterprise Applications ライセンス・モデルでは、企業全体に必要な製品のライセンスを取得できるため、特定の User ライセンス、サーバーまたは配置場所の追跡管理は不要です。Enterprise Applications モデルは大規模企業だけでなく、ライセンスの追跡管理が困難な企業（例：アプリケーションが多数の地域にまたがって導入されている）にも適しています。

Enterprise Applications 価格モデルには 5 つのライセンス定義がありますが、最も一般的なのは次の定義です。

**Enterprise \$M in Revenue:** この定義は、会計年度内の利子収入を含む全売上金額総計を指し、百万 US ドルで定義されます。

Enterprise Applications のライセンス契約には最少ユーザー数と制約が適用されます。このモデルがお客様のニーズに最適かどうかは、オラクルの営業担当者にお問い合わせください。

Oracle Applications の詳細については、オラクルの営業担当者にお問い合わせください。

# On Demand

## 概要

Administration Services

Computer and Administration Services

## 概要

Oracle Services の一環である Oracle On Demand は、企業のアプリケーション、データベースおよびその IT 基盤のオラクル・エキスパートによる委託管理を実現する、SaaS (software-as-a-service) 型サービス製品群です。オラクル・ソフトウェアは定評のあるオラクル・データ・センターやお客様の自社設備、またはサード・パーティ拠点での管理が可能です。

オラクルは業界最先端のテクノロジーおよびアプリケーション製品を、加入サービスまたは管理アプリケーション・サービス・モデルのいずれかで提供します。加入モデルは先行投資が不要で、IT 部門の大幅なサポートがなくても即座に開始できます。管理アプリケーション・モデルは業種や産業部門に深く特化しており、専用インフラで稼働します。加入サービスのハードウェアは常にオラクル・データ・センターに配置されます。管理アプリケーション・モデルのハードウェアはオラクル・データ・センターや、お客様やサード・パーティの拠点に配置されます。Oracle On Demand ソリューションの概要を次の表に示します。

カテゴリ	説明
Oracle Technology On Demand	<p>Oracle Technology On Demand は、データベース、ポータルおよびデータウェアハウスを含むお客様の IT 基盤をリモートかつリアルタイムで安全に管理するための柔軟性を提供します。Technology On Demand は総保有コストを抑制すると同時にシステムの可用性、パフォーマンスおよびセキュリティを向上させるため、お客様はインフラ管理ではなく本業のビジネスに集中できます。Oracle Technology on Demand は業界トップクラスのデータベース製品、たとえば Standard Edition One、Standard Edition、Enterprise Edition だけでなく、データウェアハウジング製品やアプリケーション・サーバー製品も提供します。</p> <p>Oracle Technology On Demand はオラクル・データ・センター（コンピュータおよび運用管理サービス）や、お客様やサード・パーティの拠点（運用管理サービス）で管理されます。</p>

カテゴリ	説明
Oracle Collaboration Suite On Demand	<p>Oracle Collaboration Suite On Demand はメッセージング、カレンダーリング、ファイル共有およびリアルタイム通信などの総合サービスです。オラクル・エキスパートが Oracle Collaboration Suite を管理することで、ユーザーに優れたサービス、可用性、セキュリティおよびパフォーマンスを提供します。</p> <p>Oracle Collaboration Suite On Demand はオラクル・データ・センター（コンピュータおよび運用管理サービス）や、お客様やサード・パーティの拠点（運用管理サービス）で管理されます。</p>
Oracle E-Business Suite On Demand	<p>Oracle E-Business Suite On Demand は、顧客関係管理(CRM)、エンタープライズ・リソース・プランニング(ERP)やサプライ・チェーン管理(SCM)などを含む Oracle E-Business Suite アプリケーションを提供します。</p> <p>Oracle E-Business Suite On Demand はオラクル・データ・センター（コンピュータおよび運用管理サービス）や、お客様やサード・パーティの拠点（運用管理サービス）でホスト管理されます。</p>

### Administration Services

Administration Services はオラクルが提供する 2 つの On Demand ホスト管理サービスの 1 つです。Administration Services には、ライセンス対象のオラクル・プログラムについてリモートで提供される、システム管理、アプリケーション・テクノロジー管理および監視アクティビティがあります。

### Computer and Administration Services

Computer and Administration Services はライセンス対象のオラクル・プログラムに対するシステム管理、アプリケーション・テクノロジー管理および監視アクティビティであり、お客様によるリモート・アプリケーション・アクセスが可能なデータ・センター管理設備から、オラクルによって提供されます。

Oracle On Demand の詳細については、<http://www.oracle.com/lang/jp/ondemand/index.html> にアクセスするか、Oracle Direct 0120-155-096 までお問い合わせください。

## サービス

---

### 概要

Oracle Customer Services

Oracle Consulting

Oracle University

### 概要

Oracle Services はお客様がテクノロジー投資を最大限に活用できるように支援します。あらゆる段階をサポートすることで、ソリューション・ライフサイクル全般におよぶ多様なサービスを提供します。Oracle Customer Services、Consulting、Education のどれを必要とする場合でも、オラクル・ソリューションに精通しているエキスパートからの支援を得られます。

### Oracle Customer Services

Oracle Customer Services はソフトウェア投資における重要な要素です。テクニカル・サポートではソフトウェア・アップデートへのアクセスが提供されるため、常に最新のテクノロジーを使用できます。また、現在のビジネス・ニーズに合わせてソフトウェア環境を管理するためのライセンスの移行やアップグレードも可能です。無数の環境におけるオラクル・ソフトウェアのインストール、構成および実行に関してオラクル・エキスパートからのアドバイスも受けられます。

### Oracle Customer Services セクション

#### 概要

ライフタイム・サポート・ポリシー

Unbreakable Linux

#### 概要

オラクルが提供する業界トップクラスのサポートは、オラクル・システムの運用管理に必要な時間や労力、およびコストを削減します。リアルタイムの診断・監視機能はシステム・パフォーマンスの問題を事前に検知し、ビジネスへの影響を防ぎます。オラクル・エキスパートはシステムの可用性とパフォーマンスの最適化をおこなうだけでなく、製品の拡張機能がリリースされた際はその機能についてもサポートします。そして、オラクルのライフタイム・サポート・ポリシーによってシステムは常に最新かつ安全な状態に保たれ、ビジネス・ニーズで求められる最高のパフォーマンスで運用されます。Oracle Customer Services の主な内容を次の表に示します。

カテゴリ	説明
Oracle Premier Support	<p>Oracle Premier Support は、Ordering Document (注文書) や契約書では Software Update License &amp; Support と呼ばれており、標準的な Oracle Customer Services を提供します。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品やテクノロジーのメジャー・リリース</li> <li>● アップデート、修正、セキュリティ・アラート、クリティカル・パッチ・アップデート</li> <li>● サービス・リクエストに毎日 24 時間対応</li> <li>● Oracle MetaLink、Customer Connection、e-Support Portal などのプレミアム Web サポート・サービスへのアクセス</li> <li>● 税制、法律、規制の改正への対応</li> <li>● アップグレード・スクリプト</li> <li>● 通常の営業時間内の非技術的な内容に関する顧客サービス</li> <li>● 新規のオラクル製品やサード・パーティ製品/バージョンに対する動作保証</li> </ul>
Advanced Customer Services	<p>Advanced Customer Services (ACS) は、Oracle Premier Support をさらに強化したサービスであり、カスタマイズされた予防的サービスのポートフォリオを提供します。オラクル・エキスパートに直接問い合わせることも可能です。お客様が必要とするサポートや指導のレベルに応じて、次の 5 つのプログラムから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Assisted Services:</b> ACS の中で最もフレキシブルな一連のサービスで、サービスの深度や範囲をニーズに応じて選択可能</li> <li>● <b>Priority Service:</b> オラクル・サポートおよび開発部門による優先的対応に加えて、段階的に拡大するサービス・リクエストにはお客様担当のマネージャが対応する、統一性の高いサービス・パートナーシップ</li> <li>● <b>Advanced Support Assistance:</b> お客様担当のサービス・デリバリ・マネージャ、クリティカル・サービス・リクエストのプロアクティブなパフォーマンス分析および管理</li> <li>● <b>Business Critical Assistance:</b> Advanced Support Assistance のすべてのサービスに加えて、予防的サービスを提供する専門のサービス・デリバリ・エンジニアへの連絡窓口も提供</li> <li>● <b>Solution Support Center:</b> Business Critical Assistance のすべての特長を備えた、最も総合的な ACS パッケージ。サービス・デリバリ・エンジニアの専門チームによる、お客様優先の最上級のサポート体制を毎日 24 時間提供</li> </ul>

カテゴリ	説明
JDeveloper Support	JDeveloper Support は、Oracle Technology Network (OTN) からダウンロード可能な無償の JDeveloper 製品で利用できます。JDeveloper のインストールおよび運用に関する製品固有の質問について、Oracle Metalink を経由してオラクル・エキスパートに問い合わせたり、必要な情報に直接アクセスすることができます。
Extended Support	<p>Premier Support フェーズの終了後、Extended Support は特定の製品リリースに対してさらに 3 年間、サポートを提供します。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品やテクノロジーのメジャー・リリース</li> <li>• アップデート、修正、セキュリティ・アラート、クリティカル・パッチ・アップデート</li> <li>• サービス・リクエストに毎日 24 時間対応</li> <li>• Oracle MetaLink、Customer Connection、e-Support Portal へのアクセス</li> <li>• 税制、法律、規制の改正への対応</li> <li>• アップグレード・スクリプト</li> <li>• 通常の営業時間内の非技術的な内容に関する顧客サービス</li> </ul> <p>Extended Support に次のサービスは含まれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サード・パーティ製品/バージョンに対する動作保証</li> </ul>
Sustaining Support	<p>Extended Support の期間終了後は、Sustaining Support をすべてのオラクル製品について利用できます。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品やテクノロジーのメジャー・リリース</li> <li>• 既存プログラムのアップデート、修正、セキュリティ・アラート、クリティカル・パッチ・アップデート</li> <li>• サービス・リクエストに、適正な範囲で毎日 24 時間対応</li> <li>• Oracle MetaLink、Customer Connection、e-Support Portal へのアクセス</li> <li>• 既存のアップグレード用スクリプト</li> <li>• 通常の営業時間内の非技術的な内容に関する顧客サービス</li> </ul> <p>Sustaining Support に次のサービスは含まれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規プログラムのアップデート、修正、セキュリティ・アラート、クリティカル・パッチ・アップデート</li> <li>• 新規の税制、法律、規制の改正の対応</li> <li>• 新規のアップグレード・スクリプト</li> <li>• 新規のサード・パーティ製品/バージョンに対する動作保証</li> </ul>

オラクルのサポート・サービスは比類のない規模と知識を誇っています。お客様はグローバル・サポート・センターを通じて、毎日 24 時間、リアルタイムでミッション・クリティカルな問題に対するサポートを受けられます。グローバル・センターは 5 大陸に 17 箇所の主要拠点を持つため、どの地域や時間帯でビジネスが実施されている場合でもサポートが可能です。7,500 名に及

ぶサポート・エキスパートは、豊富な製品知識や専門知識を 27 カ国語で提供します。オラクルはお客様の全製品領域に最適なサービス・ソリューションを提供します。

#### ライフタイム・サポート・ポリシー

オラクルのライフタイム・サポート・ポリシーでは、お客様がオラクル製品のライセンスを保有し、サポート契約を継続するかぎり技術的サポートを提供します。これは最も包括的なサポート・ポリシーであり、データベースからミドルウェア、アプリケーションまですべての全製品領域を網羅するものとしては業界初かつ唯一のポリシーです。ライフタイム・サポート・ポリシーは Premier Support、Extended Support、Sustaining Support の 3 つのサポートフェーズで構成されています。

Premier Support は Software Update License & Support と呼ばれ、Oracle Database、Oracle Fusion Middleware および Oracle Applications のメンテナンスとサポートを、製品の正式出荷開始日から 5 年間提供します。Software Update License & Support は標準レベルのサービスであり、ソフトウェア・アップデート、パッチ、通常のメンテナンス・リリース、選択した機能のリリースなどを電話サポートとともに提供します。その他に Premier Support で提供されるものとして、Web ベースの顧客サポート・システムによるオンライン・サービスがあります。その例として、Oracle MetaLink (Oracle Technology および E-Business Suite Applications、Siebel プログラム)、Customer Connection (PeopleSoft および JD Edwards プログラム)、e-Support Portal (BEA プログラム) 等があります。これらの Web ベース・サポート・プログラムにはオンライン・セルフサービス・ツール、毎日 24 時間対応の技術的サポート、サービス・リクエストをオンラインで記録、追跡、更新および確認する機能なども含まれます。

Oracle Premier Support は先払いで年 1 回請求されます。お客様がオラクル・サポートを利用する際は、指定のライセンス・セット内のすべてのライセンスに対して同じサービス・レベルの技術的サポートが提供されます。

さらなるサポートを必要とするお客様に対しては、Advanced Customer Services が用意されています。これは Oracle Premier Support をさらに強化したサービスで、お客様固有のビジネス・ニーズに合わせて構築されカスタマイズされた、柔軟なサポート・ソリューションを提供します。Advanced Customer Services には、企業のテクノロジー戦略に合わせて最適な専門知識と予防的な指導を提供する 5 種類のプログラムがあります。

ライフタイム・サポート・ポリシーを利用することで、お客様はオラクル製品独自のアップグレードに備えるための計画および予算を容易に設定できるようになります。

先に述べたように、Premier Support はオラクル・ソフトウェア・プログラムのメンテナンス、サポートおよびアップグレードを、製品の正式出荷開始日から 5 年間提供します。Premier Support



フェーズの終了後、新規のバージョンや後継となる製品への移行を実施しない、あるいは実施できないお客様は、特定の製品リリースに対してさらに 3 年間、追加料金で **Extended Support** を受けられます。**Extended Support** の期間終了後は（あるいは、**Extended Support** が適用されないオラクル製品の場合）、すべてのオラクル・プログラムについて **Sustaining Support** を利用できます。

ライフタイム・サポートのサービス以外にも、**Oracle JDeveloper** に対してオンライン・サポート・プログラムを提供しています。

**Oracle Customer Services** の詳細については、<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html> にアクセスするか、**Oracle Direct 0120-155-096** までお問い合わせください。

テクニカル・サポート・ポリシーの詳細については、<http://www.oracle.com/lang/jp/support/policies.html> にアクセスしてください。

### Unbreakable Linux

Linux に対する取り組みは、1998 年のオラクル初の Linux 向け商用データベースとともに始まりました。そして 2006 年、オラクルは **Oracle Unbreakable Linux** の提供を開始しました。これは、Linux オペレーティング・システムに対して定評のあるグローバル・サポートを実現するエンタープライズクラスのサポート・プログラムです。**Unbreakable Linux** は配布物ではなくサポート・プログラムなので、オラクル製品の使用の有無に関係なく誰でも使用できます。

オラクルは、サード・パーティ製のハードウェア、記憶装置、ネットワークおよびドライバにおける Linux の総合的なテストと最適化を実施する Linux エンジニアの専門チームを設置しています。**Unbreakable Linux** は Linux 上で稼動されるすべてのソフトウェア領域、たとえばエンタープライズ・アプリケーション、ミドルウェア、データベースおよびオペレーティング・システムにおけるサポートを提供します。

**Oracle Unbreakable Linux** サポートの契約者には、**Unbreakable Linux Network (ULN)** が提供されます。これは Linux ソフトウェアのパッチ、アップデート、修正へのアクセスを、プログラム・サポートおよびポリシーに関する情報とともに提供する包括的なリソースです。**Unbreakable Linux** は Enterprise Linux 用の無償インストールが可能なバイナリを提供しており、**Network**、**Basic**、**Premier** という 3 段階の Linux サポートが用意されています。これらの Linux サポート・レベルの概要を次の表に示します。

カテゴリ	説明
Enterprise Linux Premier Support	<p>Enterprise Linux Premier Support は Enterprise Linux プログラムの正式出荷開始日から 5 年間有効です。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 無制限のサービス・リクエスト</li> <li>• パッチ、修正、セキュリティ・アラートへのアクセス</li> <li>• Oracle <i>MetaLink</i> への 24 時間 365 日可能なアクセス</li> <li>• Oracle Unbreakable Linux Network への 24 時間 365 日可能なアクセス</li> <li>• ハードウェアの動作保証</li> <li>• 最後の半年間にオラクルからリリースされた Enterprise Linux プログラム、または他社からリリースされた Linux プログラムに対する、商業的に適正な範囲での修正のバックポート（バックポート・スケジュール・ドキュメントに基づく）</li> </ul>
Enterprise Linux Basic Support	<p>Enterprise Linux Basic Support は Enterprise Linux プログラムの正式出荷開始日から 3 年間有効です。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 無制限のサービス・リクエスト</li> <li>• パッチ、修正、セキュリティ・アラートへのアクセス</li> <li>• Oracle <i>MetaLink</i> への 24 時間 365 日可能なアクセス</li> <li>• Oracle Unbreakable Linux Network への 24 時間 365 日可能なアクセス</li> <li>• ハードウェアの動作保証</li> </ul>
Enterprise Linux Network Support	<p>Enterprise Linux Network Support は Enterprise Linux プログラムの正式出荷開始日から 3 年間有効です。内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パッチ、修正、セキュリティ・アラートへのアクセス</li> <li>• Oracle Unbreakable Linux Network への毎日 24 時間 365 日可能なアクセス</li> </ul>

Oracle Unbreakable Linux の詳細については、

<http://www.oracle.com/lang/jp/technologies/linux/index.html> にアクセスするか、Oracle Direct 0120-155-096 までお問い合わせください。

Oracle Enterprise Linux サポート・ポリシーの詳細については、

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/policies.html> にアクセスしてください。

## Oracle Consulting

Oracle Consulting の目標は、初期の戦略的プランニングから迅速な導入、アップグレードにいたるまで、お客様のオラクル・テクノロジーへの投資を確実に成功に導くことです。

### Oracle Consulting

#### 概要

#### International Business Rates (IBR)

定型のサービス

#### 概要

オラクルのコンサルタントは、お客様のビジネス・プロセスやビジネス・ニーズに最適なオラクル・テクノロジーに関する支援を行います。初期の戦略的プランニングから迅速な導入、アップグレードにいたるまで、エンド・ツー・エンドのコンサルティング・ソリューションを提供します。オラクル製品への投資からお客様が最大の成果を得られるようにするため、Oracle Consulting は Oracle Development と協力して作業に取り組みます。オラクルのコンサルタントは多種多様な提供手段（オンサイト、オンショア、ニアショア、オフショアなど）を組み合わせることで、お客様のプロジェクトの各フェーズに最適なプランを作成し、迅速に費用対効果の高いオラクル製品の導入を行います。

#### International Business Rate (IBR)

人件費は世界各国で大幅に異なるため、Oracle Consulting が運営する各国のコンサルティング・サービスの価格設定には、International Business Rate (IBR) が適用されます。International Business Rate の設定によって、Oracle Consulting は以下の対応が可能になりました。

- 一貫した基準によるリソースの価格設定
- 欧州連合 (EU) の特定の価格規制の準拠
- 世界各国で共通な経済モデルの維持

各国のリソースに対する International Business Rate の設定は、以下項目を乗算することにより求められます。

- 各国当該国のグローバル価格設定に関する指標値 (IBR インデックス)
- コンサルタント・レベルに応じたグローバル・レート (米国ドル)
- 当該国の為替レート

この価格はオラクル・コンサルタントがサービスを提供した国ではなく、コンサルタントの所属する国を基準として決められることにご留意下さい。

### 定型サービス

Oracle Consulting は、特定の範囲を対象とした短時間での導入サービスを用意しています。これは、インターネットベースのテクノロジーを通じて、必要なときに迅速かつ低コストで利用できます。これらの定型サービスは、事前に定義された実績のあるビジネスモデルに基づき、クリティカルなビジネス・プロセスを実現し、大規模な導入に伴う複雑性、時間およびコストを削減し、更にグローバルな機能性と可用性を提供することも目的としています。Oracle Consulting の利用によって、先進的なビジネス・フローを基準にしたビジネスの簡素化と標準化をわずか 30 日間で実現できます。

Oracle Consulting の詳細については、<http://www.oracle.com/lang/jp/consulting/index.html> にアクセスするか、Oracle Direct 0120-155-096 までお問い合わせください。

## Oracle University

オラクルユニバーシティは、新たなテクノロジーの採用に取り組んでいるお客様や、オラクル製品に関連する技術力の向上を目指しているお客様に最適な教育サービスを提供します。

### Oracle University

#### 概要

Instructor-Led Training (集合研修)

一社研修

Live WebClass (English)

Self-Study CD-ROM (English)

Knowledge Center (English)

オラクル認定資格制度

#### 概要

オラクルユニバーシティはオラクル製品のトレーニングを提供します。研修コースは専任のカリキュラム開発者が作成し、経験豊富なインストラクターがデモンストレーション、実機演習を交えて解説します。研修受講により最新のテクノロジー・ソリューションの採用を促進することで、最大の投資対効果を実現できます。

オラクルユニバーシティはさまざまな受講形態を通じて多くのスキル・レベル別のコースを提供します。受講形態には全国の会場で開催する **Instructor-Led Training (集合研修)** や **eラーニング** でのインターネットを利用したコースの他、お客様のニーズに合わせてカスタマイズする一社研修がありお客様の時間や予算のご要望に応じて提供します。また、オラクルは世界のビジネスシーンで通用する認定資格も提供します。この認定資格は知識と経験を証明し、技術者のキャリアアップを支援します。

### **Instructor-Led Training (集合研修)**

オラクルユニバーシティの定番 **Instructor-Led Training (集合研修)** では最先端の技術を網羅し、初心者から上級者までを対象とした様々なカリキュラムを提供します。おのこの職務要件に応じた実践的な内容であり、認定資格試験の予習にも役立つ演習が行われます。オラクルユニバーシティの **Instructor-Led Training (集合研修)** は教室での実機演習やデモンストレーションなど、実機を利用した主体的な学習環境を提供します。

#### 一社研修

オラクルユニバーシティでは、お客様のニーズに合わせて研修をカスタマイズする一社研修を提供しています。一社研修では、研修開催時期、実施場所、実施日数、内容など、お客様のニーズに

合わせてカスタマイズするため、ソリューション導入支援部門、IT 部門、その他技術者の育成を必要とする部門などの個々のニーズにお答えすることが可能です。研修のための出張を最小限に抑えたいお客様にとって、一社研修は理想的なソリューションです。

### Live WebClass (English)

自宅もしくは会社でインターネットを経由して研修を受ける形態であり、時間と交通費を節約することが可能です。経験豊富なインストラクターによって実施されるこのオンライン研修は、集合研修と同レベルの内容を提供します。コースによって実施形式は異なり、インストラクターがオンラインで指導する標準的な研修や、セルフ・スタディ形式の4時間のオンライン研修があります。また、ホストのソフトウェア環境へのオンライン・アクセスによる実機演習も受けられます。

トレーニングはオンラインの Web と音声カンファレンスの双方で実施されます。オンライン研修に問題なく参加できるようにするため、受講者はシステムが正しく設定されているか確認する必要があります。

※ 日 本 で は 、 現 在 L i v e  
W e b C l a s s の ご 提 供 を し て お り  
ま せ ん 。

### Self Study CD-ROM (セルフ・スタディ CD-ROM)

自分のペースで好きな時間に好きな場所で学習したいという場合は、オラクルユニバーシティの Self-Study CD-ROM を個人用コースとして利用できます。各コースの CD-ROM にはオラクル製品に関連する IT トピックの内容が含まれています。多くのコースが Instructor-Led Trainings (集合研修) と同等の内容をカバーしており、復習にも役立ちます。また、一般的なトピックや専門的なトピックについて知識を広げることができます。包括的で魅力的なレッスンには、最新のマルチメディアやインストラクション形式を利用した実機演習も用意されています。

Self-Study CD-ROM は集合研修に出席できない場合や自分のペースで学習したいという場合に最適です。

※ 日 本 で は 、 現 在 S e l f - S t u d y  
C D - R O M ( S S C D ) の ご 提 供 を し  
て お り ま せ ん 。

### Knowledge Center (ナレッジ・センター)

オラクルユニバーシティの Knowledge Center (ナレッジ・センター) は、自己学習コースに対するオンデマンド・アクセスを提供します。センターには何千種類ものオンライン・コースや、録画

された Web クラスや Web セミナーが用意されています。ナレッジ・センターの利用によって研修のための時間と交通費を節約できるため、社内の多くの方々が重要なスキルを習得することができます。毎日 24 時間、どこからでも受講できます。オラクルユニバーシティの Knowledge Center は受講者の次のような目的を支援します。

- オラクル認定資格の試験準備
- さらに高度なテクノロジーの学習
- 導入に関する専門知識の取得
- 各国拠点の技術者トレーニング
- Instructor-Led Trainings（集合研修）を補足する資料の閲覧

※ 日本では、現在 Knowledge Center のご提供をしておりません。

日本での e ラーニングサービスは プレミアム・ライブラリ となります。

### オラクル認定資格制度

オラクル認定資格制度は世界のビジネスシーンで通用する世界標準の認定資格であり、技術者が IT キャリアにおける優位性をアピールできるだけでなく、企業の保有する技術力を証明するための客観的な指標として役立てることができます。オラクル認定資格は体系だった知識と経験を証明するものであり、技術者個々の専門スキルの更なる発展を支援し、生産性と信頼性を向上させます。

ORACLE MASTER をはじめとする各認定資格は、その価値が IT 業界で広く認められており、IT 技術者やマネージャにとって経験と専門知識を証明する指標になっています。今日では、全世界で 35 万人以上が認定資格を取得しています。

オラクルユニバーシティの詳細については、<http://www.oracle.com/jp/education/> にアクセスするか、0120-155-092 までお問い合わせください。

## パートナー

### Oracle PartnerNetwork

パートナーの種類

ライセンス・タイプ

### Oracle PartnerNetwork

Oracle PartnerNetwork (OPN) は、オラクルの事業の成功にとって欠かせないオラクルのパートナー・プログラムです。全世界 19,000 社以上のパートナー（日本国内は約 1,100 社）の支援によって、より幅広い市場を対象とした豊富なソリューションを構築し、多種多様なビジネスニーズに対応するソリューションを通してお客様にさらなる価値をもたらすことができます。

オラクルとそのパートナーは協力して、業界最先端のソリューションとサービスを世界中のお客様に提供しています。お客様がオラクル・パートナーからオラクル製品ベースのソリューションやサービスを選択した場合、世界トップレベルのオラクル製品に加え、特定の機能的分野、市場、または業界ニーズに対処する拡張機能も提供されます。これらの機能は、パートナーがオラクルと密に連携して開発したものです。

### パートナーの種類

オラクルは、ハードウェア・ベンダー、システム・インテグレーター (SI)、独立系ソフトウェア・ベンダー (ISV) など、さまざまなソリューションやサービスを提供する企業とパートナー関係を築いています。多彩なサービスやソリューションを提供するため複数のパートナー・カテゴリにまたがるようなパートナーも数多く存在します。

### ライセンス・タイプ

ライセンス・タイプによってオラクル・ソフトウェアの使用方法が異なります。標準的なライセンス・タイプは Full Use ライセンスです。Full Use ライセンスでは、エンド・ユーザーが開発、テスト、本番およびフェイルオーバーなどの用途にソフトウェアを使用できます。（これらのライセンス環境の詳細については「テクノロジー製品」および「アプリケーション製品」のセクションに記載されています。）

オラクル・パートナーは Full Use ライセンス、Application Specific Full Use (ASFU) ライセンス、Embedded Software ライセンスのいずれか、またはすべてを提供します。

### Application Specific Full Use ライセンス

Application Specific Full Use (ASFU) ライセンスは、オラクル・パートナーにより開発、一般に市販され商用利用が可能なアプリケーション・パッケージと共に販売される制限付きのライセ



ンス・タイプです。ASFU ライセンスではエンド・ユーザーがアプリケーション・パッケージと組み合わせる場合のみ、オラクル・ソフトウェアを開発、テスト、本番およびフェイルオーバーなどの用途に使用できます。ASFU ライセンスは、その他のアプリケーション・パッケージで使用することはできません。

#### Embedded Software ライセンス

Embedded Software ライセンス (ESL) は、オラクル・パートナーにより開発、一般に市販され商用利用が可能なアプリケーション・パッケージおよび物理的機器と共に販売される制限付きのライセンス・タイプです。ESL ではエンド・ユーザーがアプリケーション・パッケージまたは物理的機器のみを実行する場合に使用できます。Embedded Software ライセンスは、その他のアプリケーション・パッケージで使用することはできません。

Embedded Software ライセンスでは ESL パートナーのアプリケーション・パッケージとオラクル・プログラムが完全に統合されているため Full Use ライセンスまたは Application Specific Full Use ライセンスへのアップグレードは不可能であり、他のライセンス定義にも移行できません。

オラクル・パートナーを通して購入されたオラクル・ソフトウェアは、ライセンス・タイプやパートナーとオラクルの関係に応じて、パートナーまたはオラクルによって直接サポートされます。

Oracle Partners Network およびオラクル・パートナーの詳細については、<http://www.oracle.com/lang/jp/partnerships/index.html>にてご確認ください。

## 参考資料

---

オラクル (NASDAQ: ORCL) は世界最大の企業向けソフトウェア会社であり、規模や業績において世界でもトップクラスの企業に基盤となるソフトウェアを提供しています。年間収益は 160 億 US ドル超にのぼり、データベース、ミドルウェアおよびアプリケーションなどの製品群を、関連するコンサルティング、アウトソーシング、トレーニングおよびサポート等のサービスと共に提供しています。米国カリフォルニア州レッドウッドショアに拠点を置くオラクルは、すべての製品ラインにおいて 100%インターネット対応の企業向けソフトウェアを開発、導入している業界初のソフトウェア企業です。

この文書は 2016 年 2 月 24 日付けで有効になるオラクルの方針に関するガイドラインを提供するものであり、お客様が拠り所とする明示的または暗黙的な保証や表現は含まれません。オラクルとのライセンスや契約に関して疑問が生じた場合はお客様の顧問弁護士にご相談ください。